

大学院教育学研究科

所属・職位	大学院教育学研究科（教職大学院）・准教授	
氏名	河野 晋也 (Kouno Shinya)	
取得学位	修士（教育学），長崎大学，2007年3月	
SDGs目標	    	
研究分野	ESD, 社会科教育	
研究キーワード	持続可能な開発のための教育, SDGs, 社会科	
研究内容	<p>● ESDに関する研究</p> <p>ESDは、Education for Sustainable Development（持続可能な社会の担い手を育成する教育）の略で、環境教育や開発教育をはじめ、平和、国際理解、地域の活性化、人権など様々な領域にまたがる教育です。年々深刻化する環境問題やSDGsが注目されるようになり、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間を中心に学校現場で取り込まれることも増えてきました。ESDでは、SDGsや現代社会の諸課題に気付いたり、課題を解決するための能力を身につけるだけでなく、子どもたちが自身の価値観と行動を変えていくことが目的です。児童・生徒の変容を促すための学習の在り方について、総合的な学習の時間や社会科を中心に研究しています（論文1. 3.）。</p> <p>● 社会科に関する研究</p> <p>公民的資質・能力を育むことが求められる社会科教育は、より良い自身の生き方や社会の在り方について考えるESDと親和性が高い教科だと言えます。より良い社会の在り方や社会の在り方を考えるためには、今の自分の生き方や自身を取り巻く環境について、クリティカルに考えていくことが必要です。しかし、子どもたちにとって現代社会の様々な問題は自分ごとにはなりがたく、自分たちの生活を見つめなおすことも容易なことではありません。学びを深めていくためには、身近なところに問題を見出し、その問題に取り組む人々の姿に出会うこと、そして他者と相互に考えをねり合って知識を構築していく過程が必要だと考えます。こうした探究的な学びのデザインについて、特に小学校社会科の授業を通して研究しています（論文2.）。</p>	
研究業績・アピールポイント	<p>●論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 2021年「持続可能な社会の担い手としての価値観変容をめざす社会科学習：素朴概念の転換を取り入れた学習方略」広島大学大学院人間社会科学研究科『教育学研究』（2）pp. 375-384 2020年「持続可能な社会の創りに求められる批判的思考力の育成：小学校社会科第5学年『これからの食料生産』の実践をとおして」日本社会科教育学会『社会科教育研究』（139），pp. 24-35 2018年「持続可能な社会を形成する主体としてのアイデンティティの構築：小学校第5学年総合的な学習の時間の実践を通して」奈良教育大学次世代教員養成センター『次世代教員養成センター研究紀要』（4），pp. 59-67 	